

真野地区
防災福祉コミュニティ
地域おたすけガイド
(災害初動対応計画書)

平成29年6月改訂
真野地区防災福祉コミュニティ

真野地区防災福祉コミュニティ地域おたすけガイドについて

地震や津波だけでなく大雨による大災害はいつ発生するかわかりません。また、発災後72時間(3日間)が、人の生死を分けるターニングポイントとされています。この発災後72時間(3日間)に焦点を絞り、災害が発生した際、私たち真野地区住民がより組織的な活動ができるようにするため作成したのが

『真野地区防災福祉コミュニティ 地域おたすけガイド』です。

この『真野地区防災福祉コミュニティ 地域おたすけガイド』に記載されている内容に沿って活動を行えば、だれもが適切な災害対応ができます。

いざ!という時に有効に活用できるよう、真野地区一丸となってこれを用いた訓練を行い、災害に備えたいと思います。

平成28年12月吉日

本部長



真野地区防災福祉コミュニティ地域おたすけガイド

(災害初動対応計画書)

防コミ運営本部設置基準

- 震度5弱以上若しくは兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された場合、地震による災害が発生し、又は災害が拡大する恐れがある場合。
- 特別警報が出された場合。
- 上記のほか、大雨等で神戸市に土砂災害警戒情報が発表された場合。

活動方針

阪神・淡路の教訓で、近隣の方々に助けあうことはとても重要です。しかしながら、周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分達の出来る範囲で防災活動を行いましょう!!

防コミ運営本部 設置場所	真野地域福祉センター 長田中学校（津波時）		
防災資器材庫	真野公園	真野地域福祉センター	
避難所	真野小学校	長田中学校（津波時）	
耐震性防火水槽	真野公園	真野地域福祉センター	
防災行政無線保有者	各自治会長		
要援護者名簿保管場所	民生委員		

☆地震☆

は、その行動が完了したら✓をつける。

1 防コミ運営本部の立ち上げ

- 自宅の火の元をチェックしたか確認する。
- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報作戦班、資源管理班等の班編成を行う。
- 本部に地域の地図、防災マップ、役員名簿などを配置する。
また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。
- 情報作戦班は地区内の被害情報を収集し、被害状況に応じて、活動内容の具体的指示（情報収集・伝達、安否確認、被災者の救出・救護等）を出す。
- 各ブロックの活動班の人員が不足している場合は、本部から人員を派遣する。

2 自治会毎の災害対応

- 防災活動が可能な市民は、最寄りの「防災資機材庫」や「耐震性防火水槽」に集まり、数名で班を編成し防災活動を行う。
- 自治会長等は資機材庫で、消火や救助など、対応すべき災害に応じた班を集まってきた市民で編成する。

3 情報収集・伝達

- 防コミ運営本部はラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
- 防コミ運営本部が防災行政無線等により収集した地震情報等は、伝令等により、自治会長に伝達する。
- 防コミ運営本部は、伝令等により、自治会長から各地区内の被害状況や通行困難な道路、住民の安否等の状況調査を行う。
*地震時は有線電話、携帯電話は使用できないと考えた方がよいです。

4 安否確認

- 要援護者名簿を事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し安否確認を行う。
*ドア等に安否確認済みの目印をつける、安否不明者宅に連絡票を張るなどによる区別も効果的です。

5 消火活動

- 自治会単位で耐震性防火水槽の小型動力ポンプやあらゆる消火器具等を活用し初期消火を行う。
- 出火場所を確認する。

消火活動人員の割り振りをする。

井戸の水も利用する。

*火災の規模によっては消火器やバケツリレーでの消火も重要です。

6 救出・救護活動

二次災害に注意しながら、自治会単位で防災資機材を使用し負傷者を救出する。

*救出にはジャッキやバール、のこぎりなどが有効です。

救出活動人員の割り振りをする。

被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し医療機関に搬送する。

7 災害時要援護者の避難支援

自宅の損傷の状況等により、避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う。

支援者の割り振りをする。

8 区や消防署への連絡

被害情報、活動情報等を区役所や消防署に連絡する。

避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

9 避難所のたちあげ

学校関係者や区役所職員と協力して避難所をたちあげる

避難者名簿の作成

☆津波☆

□は、その行動が完了したら✓をつける。

1 防コミ運営本部の立ち上げ

- 市からの情報が無くても、強い揺れや長い揺れを感じた時は、津波が発生すると判断し、あらかじめ定めた津波の影響を受けない場所「長田中学校」に運営本部を設置する。
- 防災行政無線やテレビなどで情報収集できなくても、約1分以上の長い揺れを感じれば、避難する。
- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報作戦班、資源管理班等の班編成を行う。
- 本部に地域の地図、防災マップ、役員名簿などを配置する。
また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。
- 「真野地区の方は集まってください」と呼びかけ、活動人員と情報を募る。
- 活動人員が不足している場合は、元気な避難者の中から活動人員を募る。

2 情報収集・伝達

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ等から津波警報、津波注意報等を収集するとともに、有線電話、携帯電話等を使用して、自治会長に伝達する。
- 災害時要援護者に直ちに避難を呼びかける。

3 消火活動

- 水バケツや消火器で消火できる範囲（火炎が天井まで）であれば消火を試み、それ以上の規模になれば津波の危険性を鑑みて避難する。

4 避難支援

- 各自治会内の住民は、直ちに避難が困難な災害時要援護者の避難支援を行うとともに、避難の際には「津波が来るから逃げろ！」等の呼びかけを行い、率先して避難する。
- ストレッチャーも含めて、車椅子、シルバーカーなど、身の回りにある車輪がついた道具を使って、災害時要援護者の避難支援を行う。

5 タイムキーパー班（時間管理班）

- 統括防災リーダーは、タイムキーパー班長を指名する。
- 「タイムキーパー班長」は、本部付近にて、ラジオ、時計、トランシーバ、メガホン等を備え、地震発生後10分刻みで時報を行う。

□ 「タイムキーパー班員」は、ラジオ、時計、トランシーバ、メガホン等を備え、JR神戸線のガード下に分かれて、海側に戻ろうとする地区住民がいればJR神戸線より山側に留まるよう呼びかける。

※ 障がい者就労支援事業所（株）ハッピーエリア（長田区対藻島町1丁目1-65）の方は神戸市中央卸売市場 西部市場に避難

災害時要援護者とは

災害が発生した場合に、安全な場所に避難したり、避難場所での生活において困難が生じて、まわりの人の助けを必要とする方

- ・ 障がいのある方
- ・ 介護が必要な方
- ・ 高齢者（ひとり暮らしの方、高齢者世帯など）
- ・ 難病患者、乳幼児、妊産婦のほか、災害時に負傷した方など自力で避難することが難しい方

要援護者としての登録を希望される方は、民生委員にお申し出ください。

☆風水害☆

□は、その行動が完了したら✓をつける。

【災害発生前】

1 防コミ運営本部の立ち上げ

- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報作戦班、資源管理班等の班編成を行う。
- 本部に地域の地図、防災マップなどを配置する。また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。

2 情報収集・伝達

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 収集した情報は、有線電話、携帯電話等により、自治会長に伝達する。
- 洪水や土砂災害の危険性が予測される場合は、災害時要援護者に早期の自主避難を呼びかける。また、各自治会の活動班による災害時要援護者避難誘導が実施できるよう体制を整える（人員確保等）。

3 組織内の連絡体制の確保

- 情報伝達の手段や順番（誰が誰にどのように伝えるのか）をあらかじめ整理しておく。

4 災害時要援護者の避難誘導

- 洪水や土砂災害の危険性が予測される場合で、災害時要援護者が自ら避難できない場合は、各ブロックの活動班により避難誘導を実施する。

5 資機材等の確保

- 災害発生時に備えて、防災資機材の確保や非常食等の確保をする。

【災害発生直後】

1 防コミ運営本部による指揮

- （【災害発生前】と同様の方法で防コミ運営本部を立ち上げる。）
- 情報作戦班は地区内の被害情報を収集し、被害状況に応じて、各自治会に活動内容の具体的指示（情報収集・伝達、安否確認、被災者の救出・救護等）を出す。
- 各ブロックの活動班の人員が不足している場合は、本部から人員を派遣する。

2 自治会毎の災害対応

- 防災活動が可能な市民は、最寄りの「防災資機材庫」や「耐震性防火水槽」に集まり、数名で班を編成し防災活動を行う。
- 自治会長等は「救出・救護」など、対応すべき災害に応じた班を集まってきた住民で編成する。

3 情報収集・伝達

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 防災行政無線等により収集した気象情報等は、有線電話、携帯電話等により、自治会長に伝達する。
- 有線電話、携帯電話等により、自治会長から各地区内の被害状況や住民の安否等の状況調査を行う。

4 安否確認

- 要援護者名簿を事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し安否確認を行う。
 - * ドア等に安否確認済みの目印をつける、安否不明者宅に連絡票を張るなどによる区別も効果的です。

5 救出・救護

- 二次災害に注意しながら、自治会単位で防災資機材を使用し、被災者を救出する。
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

6 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報等を区役所や消防署に連絡する。
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

7 避難所のたちあげ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所をたちあげる。
- 避難者名簿を作成する。

③各災害の共通事項

【数時間後～3日(72時間) ぐらいまで】

1 役割分担の見直し

- 防災福祉コミュニティの役員の集結状況や災害の状況に応じて役割を見直す。

2 避難所の運営

- 学校関係者、区役所職員や災害ボランティアと協力して避難所の運営にあたる。
- 女性や子育て家庭への配慮
- 同行避難してきたペットへの配慮
- 災害時要援護者への配慮（要援護者ご本人やご家族の意向を踏まえ、避難所内に一般の方と分けした要援護者のための福祉避難室を設けるなどの対応：保健室の利用など）

※特に、知的や精神、発達障がい者のうち、集団生活に対応することが困難な方、透析患者やオストメイト（人工肛門など）などの内部障がい者について、特別な配慮が必要であることを、他の避難者に理解していただくことが大切。

- 福祉避難所（次頁参照）を必要とする方について、避難所を巡回する市の保健師へつなく。

3 生活情報の収集

- 生活情報の収集及び住民への周知

4 防火・防犯パトロール

- パトロール班を結成し、交代で地域内のパトロールを行う。

「福祉避難所」について

神戸市では、避難所での生活において、何らかの特別な配慮を要する方のための二次的避難所として、地域福祉センターや特別養護老人ホームなど、**357**箇所を「福祉避難所」に指定しています（平成**29**年**3**月末時点）。

福祉避難所の対象者は、市の保健師が避難所で行う健康調査等をもとに、ご本人やご家族の意向や状況を踏まえ、市が決定します。

要援護者から福祉避難所への直接避難の相談があった場合は、区災害対策本部へ連絡いただくよう、対応をお願いします。

※福祉避難所の開設は、対象者の人数や施設の状況、対応可能な人員や物資の確保の状況等を踏まえて、市が判断します。災害時に常に開設される訳ではありませんので、要援護者の方を含め、まずは一般避難所へ避難していただくこととなります。

情報収集・伝達

- 1 ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
- 2 地域内の災害情報を把握する。

情報収集・伝達手順

1 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

(1) ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

(2) 行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に出向くなどして、公開されている情報を収集する。

(3) 各ブロックからの情報収集

2 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。

安否確認

- 1 安否確認情報の収集
- 2 安否不明者の確認

訪問先での確認手順

- 1 外観の確認
建物に甚大な被害がないかを確認してください。
- 2 声かけ・呼びかけ確認
門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認してください。
- 3 ドアをノックする
応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックしてみてください。
- 4 庭・勝手口等の確認
状況が把握できないときは、庭・勝手口などの確認をしてください。
- 5 確認シールの貼付
確認した状況に応じて、玄関ドアにシールを貼付してください。

救出・救護活動

- 1 自治会単位で防災資機材(ジャッキ、のこぎり、バール等)を活用し、協力して救出活動を行う。
- 2 救護(応急手当)を実施する。

救出・救護手順

1 被害の実態把握

- (1) 倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か(けがの程度も含めて)確認する。
- (2) 建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- (3) 二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

2 二次災害の防止

- (1) 木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- (2) 柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がすれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- (3) 火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

3 要救助者の救出

- (1) 要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。
- (2) 要救助者を無理に引き出そうとしない。

4 応急手当

出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

消 火 活 動

- 1 自治会単位で耐震性防火水槽の小型動力ポンプ等を活用し初期消火を行う。
- 2 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

消火活動手順

1 消火用水の選定

- (1) 火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側の消火用水を使うなど風向きに注意する。
- (2) 河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かび上がらないようにする。
- (3) ポンプから水面までの高低差はC級で7m以内、D級で4m以内を目安とする。

2 ホースの延長要領

- (1) 道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- (2) ホースの結合は漏水しないように確実にを行う。

3 送水の時期

- (1) ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図がってから送水する。
- (2) 放口コックを開けるときは筒先の反動力を考え徐々に行う。

消火活動

1. 研修を受けた人が中心となり、耐震性防火水槽の消火用動力ポンプ等を活用し、初期消火を行う。
2. 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

消火活動手順

1. 消火水の選定

- ①火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側を使うなど風向きに注意する。
- ②河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かばないようにする。
- ③ポンプから水面までの高低差はC級で7m以内、D級で4m以内を目安とする。

2. ホースの延長要領

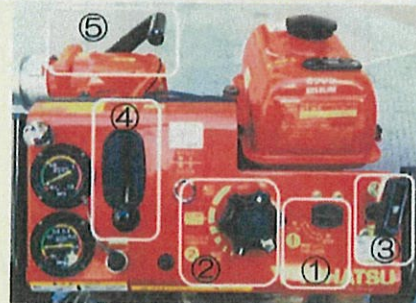
- ①道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- ②ホースの結合は漏水しないように確実に行う。

3. 送水の時期

- ①ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水する。
- ②放口コックを開けるときは筒先の反動力を考え徐々に行う。

消火用動力ポンプの使い方

- ①燃料バルブを開く。
- ②スロットルダイヤルを「給水・始動」の位置に合わせる。
- ③リコイルスターターハンドルを強く引張り、エンジンを始動させる。
- ④給水レバーを引き上げ、水を吸い上げる。
- ⑤放水バルブハンドルをゆっくり開きながら全開にし、放水を行う。



災害時要援護者の避難支援

自宅の損傷の状況等により、避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う。

避難支援のポイント

- 1 一人暮らし高齢者**
迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。
- 2 寝たきりの要介護高齢者**
避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。
- 3 認知症の人**
安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。
- 4 視覚障害者**
音声による情報伝達や状況説明が必要。避難誘導等の援助が必要。
- 5 聴覚障害者**
補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。
- 6 言語障害者**
手話、筆談等によって状況を把握することが必要。
- 7 在宅人工呼吸器使用者**
避難所での電源確保が必要。

タイムキーパー（時間管理）班

- 1 班長は、本部にて10分ごとの時報。
- 2 班員は、JR神戸線のガード下に分かれて、海側に戻ろうとする地区住民がいればJRより山側に留まるよう呼びかける。

タイムキーパー班 活動のポイント

- 1 **必要資機材を準備**
ラジオ、時計、トランシーバ、メガホン等を準備。
- 2 **班長**
本部にて時間管理を行う。
- 3 **班員**
各避難ルート of JR神戸線のガード下で待機し、地区住民が浜側に戻ろうとしたときは、山側に留まるよう呼びかける。

防災資機材台帳

【資機材保管場所】

(平成 27年10月12日現在)

保管場所 (資機材庫・保管場所)	場所	公園 地域福祉センター ・ 学校 ・ その他
	名称	真野公園及び地域福祉センター
	住所	長田区浜添通2丁目
管理状況	防災福祉コミュニティ ・ 自治会 ・ 公園管理会 ・ その他()	
連絡先		電話

【資機材明細】

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量
消火用資機材	動力消防ポンプ		個人 装 備 品	ヘルメット	48	搬 送 用 ・ 本 部 用 資 機 材	折畳みリヤカー	
	粉末消火器			ジャンパー			一輪車	2
	強化液消火器			夜光ベスト			台車	3
	訓練用消火器	3		手袋			本部用テント	
	布バケツ	20		腕章	多数		折畳み式テーブル	
	組立水槽	1		携帯用電灯	10		携帯発電機	2
	オイルパン			ボルトクリッパー	1		投光機	7
	スタンドパイプ			スコップ	9		訓練用放送セット	
	消火栓キー		パール	6	サルベージシート		1	
	手かぎ	8	簡易ジャッキ	2	コードリール		2	
	ホース(mm)		チェーンソー	1	ストーブ・ヒーター			
	管槍・ノズル		可搬式ウインチ		冷風機			
	レンチ・モンキーレンチ		エンジンカッター		丸のこ		1	
	媒介金具類		のこぎり	5	土嚢袋		多数	
	消火用ボックス		つるはし	2	プラカード		6	
	携行ガソリン缶	2	ハンマー	2	旗		1	
水中ポンプ	2	おの		防災横断幕	1			
バケツ・缶	20	はしご・脚立	3	デジカメ(三原)	1			
救急・ 救護用具	救急セット		救出・ 救 助 用 資 機 材	コンクリート破碎器具		そ の 他	拡声器(メガホン)	4
	多人数用救急箱			災害救助工具セット	1		トランシーバー	
	折畳み式担架	1		とびぐち	1		拍子木	
	車いす			救助用ロープ	3		くさび	2
	牽引式補助具			救助用安全帯			レスキューボート	1
	毛布	8		ドリル	1		トラロープ	3
	簡易担架用棒	8		グラインダー	1			

